

Ryokyu Endo

遠藤 暁及

タオ指圧／気心道の創始者で僧侶、ミュージシャンなどさまざまな顔を持つ遠藤暁及さんが語るインナートリップ。歴史的転換期を迎えている今、豊かな経験と深い洞察力から発せられるメッセージは、これからの生き方のヒントに満ちている。

文 = 寺野正樹 text = Macky

写真 = 北村勇祐 photo = Yusuke Kitamura



自我が流され、
光、愛、智慧が届けられるとき。

「利他の評判指数」が価値基準になる。

——瞑想やヨガ、断食、読経などいろんなやり方はあると思いますが、インナートリップをすることの良さ、またはすることによってどんな自分になれるのでしょうか？

暁及 まず最初に申し上げておかなければならないことがあります。それは、真の意味でのインナートリップは、世間的な尺度では当てはまらないものだということです。私たちは、「何かをすれば、何か良いことが得られる」という社会の尺度に当てはめて、ものごとを考えがちです。それで、内なる世界の旅に對しても、つい同じように思ってしまう。

近年、人々がインナートリップの世界に関心を抱くようになったのは良いことです。その一因として、経済主導の現実世界が苦しいことがあげられます。今の社会は、人と人が、お互いに相手から何かを得ようと思っただけ行動しています。こんな社会に生きること

が、苦しくないはずありません。

しかし私たちは、その延長線上でインナートリップを考え、何々をやったら、どんな良いことがあるのかなんて思っています。しかしそれでは、真のインナートリップの門に入ることはできないのです。というのは、今ある自分を捨てずに、自分に何かをプラスすることがインナートリップだと思ふこと、それ自体が、「じぶん幻想」のトラップでもあるからです。

なぜなら、本当のインナートリップとは、自己という範疇をはるかに超えた、真我である宇宙大靈との出会いだからです。人はそれに触れることで、幻想の自我トラップから解放され、卑小な自分を捨てることができます。これを仏教用語では「放下」と言いますが、洪水で家が流されるように自我が流れてしまつて、光、愛、智慧などが、向こう側から一方的に届けられる世界なんです。

——とはいえ何もないと何も始まらないと思います。
暁及 それは予感できるかどうかなんです。予感できる人は、二ノジンをぶら下げられなくても進むことができますが、予感できない人は、何か対価を得ることを示されないと始められない。そういう意味で、人々がインナートリップに関心を持つようになった、もうひとつの要因として、人々が、インナートリップすることによって出会う世界の存在を、わずかに予感し始めたということもあると思います。

——ということは、世の中、これから変わっていくだろうと思うんです。実際、エゴを捨てた方が、はるかに運氣が良くなって、良いことがたくさんあることがわかってきてますから。また今までは、お金がある人とか、地位の高い人が偉いという風潮が世の中にはありました。しかし、これから先は、どれだけ人のために価値あることをやっているかとか、どんなに人に想いやりがあるか等の「利他の評判指数」が、徐々に社会的な価値基準になっていくと思います。

それから宇宙の法則として、喜びを与える人は、喜びを与える人と出会うし付き合うようになりま

す。また、人から何かを貰おうとする人は、人から貰おうとする人とは出会わない。仮にそうでない場合は、出会ったとしても付き合わないようになっています。ということは、もし自分が楽しさを共有できる人と出会いたいなら、常に人に楽しさを与えようとする人になれば良いのです。また楽しさは、それを共有するエネルギーが大きければ大きいほど、成功もまた大きいんですよ。

——相手と楽しい体験を共有すること、それはつまり、コミュニケーション力ということですね。

暁及 コミュニケーション力の基本は何かといえば、相手の気持を想像したり、理解したりすることでしょう。それは、相手の傷みに寄り添いたいという想いから生まれます。そして、そんな想いを持つ人間同士は、ものすごく気持ちのいい関係を創るでしょう。人の幸福感というのは、そんな人間関係をどれほど持っているかが大きく関わっているんです。

タオ指圧で、相手の気や経絡（気の流れる道）がわかることに対して、僕が人の気を読み取っているのだらうと思う人がいます。しかし、それは違うんですね。タオ指圧では、ただ、相手の望んでいることをかなえてあげたいとか、相手の心を理解したい想いがあるだけなんですよ。

集中して心を澄ませて、相手に共感しているうちに、ふと自分が消えて、相手そのものになってしまふんです。うーん、もうちょっと正確にいうと、相手でも自分でもない、両者が共有するフィールドみたいな世界に入ります。まあその世界で、相手の気（無意識）がわかるんですが。

だから、自分をキープした上で、相手を客観的に見て読み取っているのではないんですね。自分ではなくなって、相手のことが自分のこととしてわかるんですね。経絡治療しているときは、人のからだを治療しているという感覚はないんです。自分の心の中を治療している感じなんです。だから気を見るというのは、インナートリップの世界でもあります。

気の流れる経絡は、相手の肉体でも自分の肉体でもありません。自分の心でもありません。相手の無意識なんです。そして、自分の心の中に見える経絡が癒えたときには、相手の肉体的症状も、それとシンクロして癒えているんです。

経絡インナートリップは、ただひたすら相手の必要に応じてする結果生まれるものです。逆に、「自分が経絡を知りたいから」とか、「相手の気を読み取りたいから」とかのように、自分のためという要素があったら、まったくわからなくなる世界だと思えます。



PROFILE Ryokyu Endo

浄土宗和田寺住職、タオ指圧／気心道創始者、音楽家など多様な顔を持つ。1990年頃より、北米、ヨーロッパ、中東、オセアニアなど世界各地で、タオ指圧、気心道、念仏ワークショップなどを開催。多数の著書があり、「気の幸福力」(ミディ)は現在、無料ダウンロード可能。また、音楽家としても6枚のアルバムをリリース。自ら率いるバンド、LAMANIではライブ活動も行っている。

各種ワークショップ・最新情報は
<http://taosangha.com> <http://endo-ryokyu.com>

自分を理解するよりも相手を理解すること。

——相手を理解するために、まずは自分のことをよく深く理解しておく必要があると思います。

暁及 実は言うところ、そうとも言えないんですよ。むしろ逆に、他者を理解しようとするので、はじめ自分がわかるといふこともあるんです。

先ほど、相手の無意識を自分として認識すると言いました。面白いことに、相手の無意識を意識化すると、これとシンクロするかのようになり、自分の無意識もまた意識化されるんですね。それで、自分を理解することができるんです。

実をいうと、自分の無意識に向き合うのは、自我が崩壊しなければ起こらないことだから、かなりハードなことなんです。修行による魂の旅(インナートリップ)において、人は自分の中にある、あらゆるポジティブなものからネガティブなものまでを見ることがあります。天国も地獄も、また内なる仏様も内なる地獄も発見します。

でも、人の気持ちに寄り添おうと思ったら、自分のなかにある、悪の部分も認識しておかないとならないんです。そうでないと、ネガティブな世界を背負った人に共感できないですから。

——確かに自分を理解しようとするよりも、人を理解しようとするほうが楽かもしれませんね。

暁及 楽かどうかは別ですけど(笑)。まあ、他者を理解しようとするのは、狭い自我を超えるということですから、心の広がり全然違いますね。

相手の気を見ること。これを簡単に言えば、相手の気持ちに寄り添い続けることによって、自我が消えていくことなんです。

実を言うと、気の不思議世界は、誰でもその日の内に体感することが可能なんです。それで、「仏教と幸福力」をテーマにした、無料体験ワークショップもやっていますよ。相手の心をダイレクトに体感するインナートリップの世界に関心のある方は、よろしければ体感しにいらしてくださいね。